



県議会において地域の高校のあり方が議論となり、県民クラブでこの問題を検討する「高校のあり方を考える研究会」を立ち上げ、会派として提言に向けて取り組むこととなったことを前号で報告しました。

早速、8月に部会のメンバーで広島県教育委員会と高知県教育委員会を訪ね、話を聞きました。

広島県や高知県でも都市部の高校への集中が進み、周辺部の高校では定員確保が厳しくなっているとのことでした。その対策として、各県教委では様々な取り組みが講じられています。



こうち留学(高知県立高校の全国募集)の案内チラシ

広島県では、4年前から中山間地域等の高校3校と都市部の高校1校を単位としたグループを3つ作り、遠隔教育システムを導入していました。

高知県では、4年前から周辺部の高校の存続を目的に、19校で生徒一人でも希望者がいれば開講が難しかった教科を遠隔授業で配信していました。さらに高知県内12校で生徒の全国募集<sup>注3</sup>が行われており、身元引受人制度や地元自治体が寮・下宿施設を作るなど支援制度を拡充しています。

大分県においては、大分市の公立高校への集中を和らげ、どの地域においても質の高い高校教育を提供できる環境を整備するとして、来年度から県内4校へ難関大学進学希望者を対象としたハイレベルな遠隔授業の配信を始めます。

地域の公立高校の存続に、どのような取り組みが有効なのか考えさせられます。

注3 大分県では国東高校・安心院高校・久住高原農業高校の3校で全国募集が行われています

## 被災された皆様には、心から御見舞い申し上げます

みなさん、8月末の台風10号で被害はなかったでしょうか？九州に上陸してからは「非常に強い」から「強い」になりましたが、速度がゆっくりだったために、多くの地域で道路の冠水など大雨による被害が起きました。中でも、線状降水帯が発生した地域では被害が大きいものとなりました。被災された皆様には、心から御見舞い申し上げます。

別府市においても、朝見川が満潮時間と重なり朝見川浸水想定域の3千以上の世帯6千人に「避難指示」が発令されました。そして、一部地域では水が溢れ浸水が起きました。

台風が通り過ぎた後に現場を訪ねると、「早めの避難をしていたが、もうちょっとで朝見川が氾濫しそうになったので怖かった」とみなさん話されていました。

朝見川を見ると、大きな岩も混ざった中州ができていました【右写真】。付近の方々も、朝見川でこのような中州を見たのは初めてだと言っていました。



### 繰り返す言うようですが…

地震や台風などの災害時の際、早期の避難と、防災用品の事前準備が大事だとあらためて感じます。

大分県防災局が発行しています『防災のしおり』に非常持ち出し品チェックリストがありますので参考にしてください。



QRコードから御覧ください